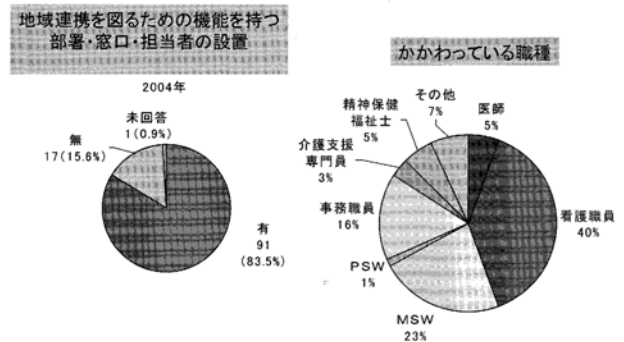


Key Words : ①包括ケアシステム ②橋渡しナース  
③地域連携

## I. 青森県における包括ケアシステム

これまでの保健医療福祉サービスは、保健、医療、福祉の各領域から住民それぞれに必要なサービスの提供が行われ、住民は必要なサービス毎にアクセスする必要があった。また、医療機関との連携の確保が大きな課題であった。青森県では、平成9年度からすべての住民が住み慣れた地域で安心して生活できることを目指し、保健・医療・福祉のサービスを一体的に提供する「保健・医療・福祉包括ケアシステム」の構築を推進してきた。保健・医療・福祉包括ケアシステムとは、地域のすべての住民を対象とし、住民が生涯にわたり健康で安心した生活がおくれるよう、健康づくりや生きがいづくり活動、地域の助け合い活動を取り込み、保健・医療・福祉のサービスを、必要ときに一体的に提供するために、サービス提供に関わる機関が連携を図るシステムである。利用者はひとつの窓口で相談をし、一体的なサービスの提供を受けることができるためのしくみである。

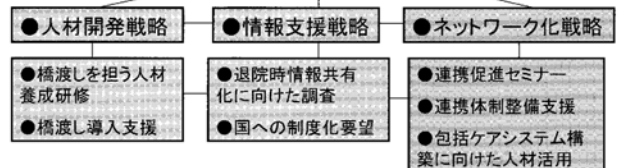
青森県における医療部門と地域との連携実態調査2004年  
12月（青森県内109病院へのアンケート）



### 「保健・医療・福祉包括ケアシステム推進事業」

●目的: 医療機関の利用者が安心して円滑に生活の場を移行し、適切なサービスが受けられる

#### ●3つの戦略



シンポジウム：青森県内の包括ケアシステムの充実に向けた課題(2)

### 橋渡し看護の取り組み

上泉 和子<sup>1)</sup>

1) 青森県立保健大学

## II. 橋渡しナース

「保健・医療・福祉包括ケアシステム」の構築をすす

める中、利用者が保健医療福祉のサービスを適正に活用し病院から地域へとスムーズに生活を移行できるよう関連専門職との連携をはかる「橋渡し」機能を担う看護職（橋渡しナース）を創出し、実態の把握、人材開発（研修カリキュラムの構築と研修会の実施）、組織運営支援（橋渡し部門新設のための支援）、ネットワーク化、活動の評価に取り組んできた。

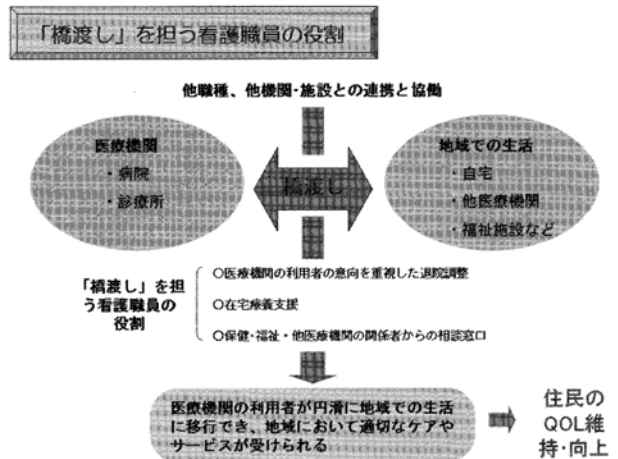
2002年には橋渡し機能を持つ部門を有する病院は58%であったが、2004年には83.5%に増加し、看護職、MSWなど、多職種がかかわるようになった。

### Ⅲ. 橋渡しナースの役割と機能

橋渡しナースの役割と機能は、1. スクリーニング、2. 医療保健福祉の間のケアの橋渡し（退院指導、退院調整）を行う、3. 在宅療養支援、4. 相談活動、などである。

### Ⅳ. 包括ケア推進にむけての橋渡し看護の課題

本取り組みでは「橋渡しナース」養成研修のための教育カリキュラムを作成し、このカリキュラムをもとに県看護協会研修として継続されることとなった。今後は養



成研修に加え、事例検討などによる継続的資質向上の機会を作ることが課題である。

県内の医療施設において、橋渡しを担う窓口および担当者の配置は増加し、定着しつつあり、担当者としては看護職が増加している。橋渡しナースの地域に根ざした自主的ネットワークの形成を支援し、地域の保健・医療・福祉関係者の有機的連携を推進することが課題である。

平成14～16年度健康科学特別研究  
 青森県における包括ケアシステムの構築に向けて  
 -医療機関における「橋渡しナース」システムの導入と育成に関する研究-

青森県立保健大学健康科学特別研究			平成15年度 日本看護協会出版会助成研究 保健・医療・福祉の連携を促進する システムー病院における橋渡しナースの サービス提供とその成果ー
平成14年度	平成15年度	平成16年度	
研究代表者 上泉 和子	上泉 和子	上泉 和子	上泉 和子
研究分担者 細川 満子 (青森県立保健大学)	細川 満子	細川 満子	細川 満子
板橋 玲子 (青森県立中央病院)	鄭 佳紅	鄭 佳紅	鄭 佳紅
今村 緑	早川 ひと美	早川 ひと美	早川 ひと美
船木 悦子 (むつ総合病院)	船木 悦子	船木 悦子	大前 尚子 (八戸市立市民病院)
五十洲 廣明	齋藤 トミ子 (五所川原市立西北中央病院)	齋藤 トミ子	相馬 美香子 (弘前大学医学部附属病院)
齋藤 文子	齋藤 文子	齋藤 文子	石脇 敬子 (青森県立中央病院)
館田 菊子 (青森県健康福祉部)	工藤 俊幸 (青森県健康福祉部)	工藤 俊幸	
	館田 菊子 (青森県健康福祉部)	館田 菊子	
	大谷 順一 (西北健康福祉こどもセンター)	大谷 順一	